心の律法に従って生きる

ローマ 2:12-15

2021年1月24日

コロナウイルス禍の中で、様々な人間模様が現れ出ています。多くの困難が浮かび上がり、人間の心の弱さや醜さが露呈する一方、人間の美しさ、優しさが浮き上がってくるのにも気づきます。苦しい実情のなか、互いに助け合って生きて行こうとする人たちが、懸命に努力している姿に打たれます。私たちは聖書の教えから、人間の本当の姿を知らなければなりません。

Ⅰ．心に記された律法

どんなに困難な状況の中でも、人間の優しさ、美しさがにじみ出てきます。それは、人間が神様に似せて造られているためです。それが、すべての人に共通な基本的人間性なのです。

罪のために悪魔の支配下に入れられた人間は、醜いこともやります。残酷非道なことの方が、優しさや美しさよりも多いかもしれません。でも、目をそむけるような酷い行為の背後にも、人の優しさや、公平さに対するあこがれがあり、それが裏切られたために、怒りとなって出てくる場合が多いのです。

たとえば、中東やアフリカで興り、今や世界中に広まっているイスラム教徒の人道に反する行為の数々も、彼らの中にある美しいものに対するあこがれ、平等に対する希望、優しさに対する渇望が、キリスト教徒たちによって裏切られてしまったことに対する、反動と捉えることができるのです。

鶏の首を切るように、人々の首を掻き切って殺していたイスラム教徒にも、彼らの良心があり、彼らの道徳律があります。

良心や道徳律は、神に似せて造られた人間性という種が、環境や教育や体験などを肥料として目を出し、育ったものです。

私たち日本人とは全く異なった、良心や道徳律を持つ人々に対しても、私たちはただそれを非難するだけではなく、寛容をもって理解する態度を持たなければなりません。

Ⅱ．心の律法を生かして生きる

良心や道徳律は人それぞれで異なります。でもその種である基本的な人間の優しさ、美しさは普遍的です。それがどれだけ強く残り、個人個人の人間の中で、あるいは地域社会や国家や文化の中で、素直に生かされているかが問題なのです。

良心や道徳律を判断基準にすると、自分たちとは違う文化や習慣を持つ人々を裁き、他国の文化を非難しがちになります。でも、彼らの意識や生活の中にある、優しさ、思いやり、助け合い、公平さを探し出し、それに注目し、それを称賛しそれを推し進めて行くように、励ましてあげることこそが大切なのです。

Ⅲ. 心の律法は文字の律法に先行する

すべての人間に、基本的人間性として与えられている心の律法は、イスラエル民族に対する律法として与えられている、旧約聖書の道徳律に先行するものです。私たちは旧約聖書の律法も、イスラエル民族に与えられた道徳律であって、普遍的ではないことを知るべきです。旧約聖書の道徳律を他民族に適用するためには、まず、その失われた普遍性を探り出して、応用しなければならないのです。

イエス様は同じイスラエル民族であっても、時代が変わり、状況が変化してしまったときには、安息日を破り、「隣人を愛し敵を憎め」という旧約聖書の教えを、「隣人を愛し、敵のために祈れ」と変えられ、旧約聖書の律法を四角四面に解釈して、強要していた人々を厳しく非難されたのです。「哀れみは犠牲に勝る」というイエス様のお言葉は、そういう意味なのです。

あれこれと理屈を言わず、優しさと思いやりといたわりの心を持って行動しましょう。またそのように行動している人たちを称賛し、さらにそういう行動が推し進められるように、励ましてあげましょう。それが神の性質の現れなのです。

Ⅳ. 心の律法に従えない困難さ

ただし、どのような努力しても、人間には、心の律法に従えない弱さがあります。心の思いを表現しようとすると、具体的な方法論で対立し、衝突してしまうことさえ多々あります。するとたちまち、争う気持ち、負けん気が頭をもたげ、素直な優しさがかたくなな自己主張に変わってしまいます。

そこで何としても必要なのは、本来の人間性を素直に表現することができる強さと、上手に表現できる知恵です。そしてそれを手に入れることができるのは、神への祈りです。神の助けによって、本来に人間性を更に強める力と、いかにすべきかという知恵を与えて頂くのです。

たとえ祈る人がクリスチャンではなくても、その心にある宗教意識を大切にし、祈るように勧めてあげるのです。この点において、私たち日本人は大変有利な宗教的環境にいます。多くの日本人

は特定の宗教を持たず、日本人としての宗教感覚を大切にしながら生きています。日本人の宗教感覚の特徴は、目に見えない、手で触れることもできない、言葉で説明することも不可能な、気高く大きく強く優しい存在を心の奥深くで感じ、それを大切にすることです。

日本人の宗教感覚の基本はこのような感覚です。その感覚に訴えてそれこそ大切なものであり、その目に見えない方、手で触れられない方、言葉で言い表すことができない方に、お祈りすることを勧めるのです。そしてその方こそ、聖書が教える天地の創造者であることを示唆してあげるのです。

Ｖ．近づく人に近づいてくださる神

聖書は「神に近づきなさい、そうすれば神が近づいてくださる」と教えています。神について何から何まで理解してから近づくのではありません。神は人間の理解を超えた存在ですから、理解はできないのです。しかし、近づくことはできます。それは神に祈ることです。祈ることは語り掛けることであり、交わりの初めであり、信頼の表現です。神は信頼してくるものを退けられることはありません。

当然、クリスチャンではない人の祈りにもお答えくださいます。クリスチャンになってから祈りが応えられるのではなく、クリスチャンになる前から、神は私たちを知り、理解し、導き、助けていて下さっていたのです。そして、祈りまで導いてくださったのです。今は、あなたというクリスチャンを通して、クリスチャンではない人に祈る心を起こさせ、ご自分に近づけさせようとしておられるのです。